

# 「よむこと」領域における授業実践例

① 学年・単元名 第1学年「じどう車くらべ」

② 単元のねらい

自動車の「しごと」と「そのために」どんな仕組みになっているかの「つくり」を確かめながら読むことで、事柄の順序を理解し、文章の中の重要な語や文を考えて自分で選び出すことができる。

③ 指導の工夫

- ・互いに説明し合う対話活動において、挿絵を指さしながら説明する活動を通して、「しごと」と「つくり」の関係性をより深く理解させた。
- ・はしご車については、「はしごがたたまれている写真」と「はしごが伸びている挿絵」が比べられるように、ロイロノートを使って全員に配布した。

④ 活用したツール

- ・教科書の挿絵や写真と動画
- ・ロイロノート

⑤ 実践内容

## 6 本時について

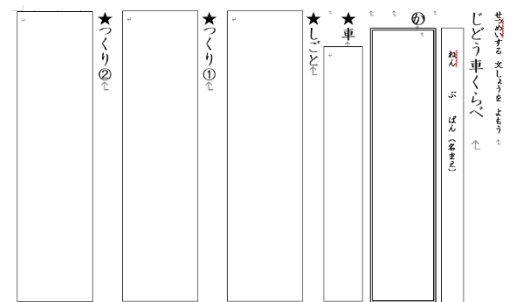
(1) 本時の目標 はしご車の資料から、その「しごと」と「つくり」を捉え、自分の言葉でカードにまとめることができる。【思考力、判断力、表現力等】

(2) 本時の展開 (7/7)

過程	学習活動	指導★援助
つかむ (5)	1 はしご車の挿絵を見て、本時のめあてを確認する。 2 本時の課題を確認する。 はしご車の「しごと」と「つくり」をカードにまとめよう。	○前時までの「せつめいカード」の書き方を示しておく。 ★はしご車の写真や絵を資料として、ICTを活用して、見せる。 ○出てきた「しごと」と「つくり」の内容のキーワードを極書する。
むかう (15)	3 はしご車の「しごと」と「つくり」について話し合う。 「しごと」 ・たかいたちの火をけす。 ・火じのときにたかいたちにいる人をたすける。 「つくり」 ・はしごがながい。・はしごのさきのかごに人がのることができる。 ・クレーン車と同じようなあしが付いている。・かごのさきにホースが付いている。	○前時までの読み取りカードと同じ形式のカードに書かせる。 ★説明の言葉や表現に行き詰まっている児童には、クレーン車との共通点を投げかけ前時までの説明の仕方を模倣しながら書き出せるようにする。 ○「そのために」で「しごと」と「つくり」をつなぐことをおさえる。
深める (15)	4 はしご車の説明を文章で書く。 「しごと」(カードに1つ書く。) ・はしご車は 火じのときに 火を けす しごとを して います。 ・はしご車は たかいたちのところに いる (にげおくれた) 人を たすける しごとを して います。 ・はしご車は たかいたちの 火を けす しごとを して います。 「そのために」 「つくり」(カードに②つ書く。) ・じょうぶな はしごが のびたり うごいたり するように、つくって あります。 ・車ながい が たむかないように、しっかりした あしが、ついで います。 ・はしごの さきに かごが ついて います。 / ・のび ちぢみ する はしごが ついて います。 ・はしごの かごに ホースが ついて います。 ・車が あかい いろを して います。 / ・タイヤが 六つ ついて います。 ←「しごと」との関係?	★二つ以上の「つくり」が書き出せる児童には、文を二文書かせる。 ★文があまり長くないように、文節を意識させ、ポイントをおさえる。 ★「つくり」の内容に関わって、「しごと」とあまりつながらない内容を取り上げている児童には、「高い所に火を消すため・高い所の人を助けるために、どれが役に立つかな?」と問いかけて、一緒に考える。
確かめる (10)	5 仲間同士「せつめいカード」を使って、はしご車の絵を見ながら説明し合う。 ・挿絵を指さしながら、説明カードにそって、説明をする。 ・互いに聞きながら、はしご車の「しごと」と「そのために」ある「つくり」の内容を確かめる。 6 本時を振り返り、次単元「じどう車ずかんをつくらう」への見通しをもつ。	○仲間の説明を聞いて、自分の気づきや説明の観点と違うところに気づく。 評価規準【思考力、判断力、表現力等】 ・既習事項を生かし、はしご車の資料から、「しごと」と「つくり」を捉えて、表現することができたか。【思考力、判断力、表現力等】



・プリント下部に挿絵をつけ、「しごと」や「つくり」と線で結んで指さしながら説明させた。



⑥ 成果と課題 (実践するときの留意点など)

○はしご車の挿絵と写真が自分の手元で見比べられたことで、どんな「つくり」になっているのか細かく見ることができた。

△1年生ではロイロノート上で文を書くということが難しく、文字を書く場合には結局プリントを作成し、活用するしかなかった。